

SGK 思^し草^{ぐさ}

LIGHTS FOR DELIGHTS
SGK

S G K ^し思 ^{ぐ さ}草

静岡技研工業株式会社

SGK^{しぐさ}思草とは

人口が多く、世界最大の都市ともいわれた江戸の町には「江戸しぐさ」という、互いの人が気持ち良く暮らすためのルールがありました。

- ・雨の日に互いの傘を外側に傾け、濡れないようにすれ違う「往来しぐさ」
- ・約束の時間に遅れるなどで相手の時間を奪うのは重い罪にあたる「時泥棒」
- ・相手にぶつかったとき、うかつだったと先に非を詫げる「うかつあやまり」
- ・待ち合い席などで人が来たら、こぶしひとつ分詰めて場所を空ける「こぶし腰浮かせ」

これらは、皆の少しずつの心がけが、住みよい社会を作るという日本人特有の気配り、気づかいを表していて、現代社会でも通用する大切な心のルール集です。

江戸しぐさの「しぐさ」は、「仕草」ではなく「思草」と書きます。「思」は思慮を、「草」は行為を意味しています。単なる行動マニュアルではなく、商人道や繁盛道、哲学としても語り継がれています。

私たち静岡技研工業もこの気配り、気づかいの心を忘れず、相手を尊重し合いながら仕事をしていきたいと思い、この本のタイトルを「SGK 思草」としました。

この本の言葉は、思いや行動のルール集を作りたいという中で出会った書籍や資料、人から集めたものです。全て

が自分の言葉ではありませんが、自分なりに静岡技研工業ではどんなふうに働き、何を考え、何を大切にしていくなきかを短くまとめてみたものです。

会社は毎日のことですから、一緒に働く仲間とのコミュニケーションはとても大切です。

そのための基本の心がけはしっかりと身につけたいものです。大切なことや、守っているルールは誰しもあると思います。しかしそれは意外とぼんやりしていて言葉や文章にするのは難しいでしょう。この本にある言葉はごくあたりまえのことばかりですが、仕事や生活に役立つ明るい道しるべとなるはずです。もし、道に迷ったら何度でも見直すことをお勧めします。

この「SGK 思草」は日々アップデートしていくものです。巻末にメモ欄を設けてあります。自分なりに思いついたことがあればどんどん追加してみてください。それを仲間と共有化することができればベクトルはさらにひとつの方向に向かっていくことでしょう。それが自身の成長であり、静岡技研工業の成長でもあるのです。全社員がこの言葉、価値観を共有し、知恵を出し合うことで、広く社会に貢献する強い企業であり続けることができると私は考えます。

静岡技研工業株式会社 代表取締役 石井朋春

2013年2月20日

株式会社 静岡技術研工業

Lights for Delights

我々は電源と光源の製造を通して、
あらゆる人々に「感動や喜びの光」を提供することで、
永続的に発展する企業となり、
自分、家庭、社会に誇れる企業を目指す

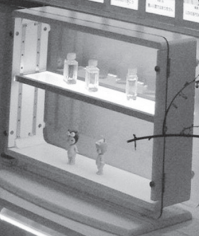
2012



石井 剛
星井に及ばず



石井 肇
平凡の非凡



第一の仕事は 規則正しい生活と健康管理

仕事において一番の優先事項は健康管理です。「病気になるのは仕方ない」ではなく、「健康管理という仕事をおろそかにした」と反省すべきです。大の大人が熱を出して休むなんて恥ずかしいことです。規則正しい生活と手洗い、うがいなどの予防を忘れずに。もし風邪をひいてしまったらマスクをするなど周りの人にうつさない配慮も必要です。

挨拶のできる人になる

人に挨拶をされる前に、自分から挨拶をする。家族や近所の人、職場の人、お客様。ほんの少しだけ勇気を出して声をかけてみましょう。挨拶に立場など関係ありません。挨拶をされて嫌な気分になる人はいません。いい挨拶といい笑顔は人を幸せにします。そしてその幸せはきっと自分に帰って来るはずです。

どんなことにも その先に人がいることを忘れない

部屋を使ったら次に使う人のことを考える。ゴミを捨てたらそのゴミを処理してくれる人のことを考える。仕事であれば材料を作ってくれる人、それを運んでくれる人、作った製品を売ってくれる人、そしてそれを使ってくれる人のことを考える。どんなことにもその先には人がいます。そのことを忘れずに行動したいと思います。

シンプルに生きる。 すべきことをよく考える

何をしないか決めるのは、何をするか決めるのと同じくらい大切です。シンプルに考えて、少しの「やるべきこと」を選び抜く。それが複雑だったら単純化することに一生懸命になる。あれもこれも手を出したところでどれも中途半端に終わるだけです。目的を絞ってシンプルに行動することが大切です。

虫眼鏡と望遠鏡

虫眼鏡と望遠鏡、二つのものの見方を身につけましょう。近くのものを見る力と遠くのものを見る力が合わさってこそ、本質を見るということに近づけます。身の回りの出来事と世界情勢もしかり。自分の時間軸も「今日のことと十年後のこと」といった、虫眼鏡と望遠鏡の二つの視点で考えたいものです。

自分の経験こそ本当の情報

世の中には情報があふれています。しかし、TV で見たり、雑誌で読んだり、人から聞いたりした情報が本当のことだとは限りません。自分の経験したところこそが本当の情報です。簡単そうに見えることも実際にやってみると大変だったりします。知識や情報で頭でっかちな人にならないように気をつけましょう。

心のこもったおいしいものを食べる

食事は毎日のことだから本当に大切です。ただ食べるのと、おいしいものを食べる努力をするのとでずいぶん違ってきます。おいしいものとは高級料理ではありません。心を込めて作られたものこそ、おいしいと思います。世の中にはいろんな食べ物がありますが、自分が作ったもの、家族が作ったもの、丁寧に作られたお店のものを食べたいと思います。

孤独は人間の条件と知る

孤独は人間として生きている条件のひとつです。仕事でも生活でも孤独感は襲ってきますが、そこからは逃げられないし、逃げれば逃げるほど孤独は影のごとく追いかけてきます。でも、自分だけが孤独なわけではありません。みんな同じ気持ちでいるのです。孤独を味わうことで、人は他人に優しくなれるのです。孤独と孤立は違うのです。

それで人は幸せになるのかと考える

何かする時は、どんな小さなことでも「これは自分ではなく人を幸せにするのか？」と自問する。この習慣はかなり重要で、仕事ぶりにも表れます。「これは次の工程を幸せにするのか？」「これは相手の担当者を幸せにするのか？」逆の立場に立ち、本当に相手のためになることは何かをよく考えることが大切です。

先手、段取り、用意周到、念入り

仕事のほとんどは準備です。準備でほとんどが達成されます。先手を打ち、段取りをし、早めのスタートを切れば落ち着けます。用意周到、かつ念入りに準備をすれば大抵のことはうまくいきます。「そろそろやらなきゃいけない」という時は遅すぎると覚え、ギリギリになって見苦しい状態にならないようにしっかり事前準備をしましょう。

日々、変化の想定を

こうしたらどうだろう、ああしたらどうだろうと、これで正しいと思っていることであっても変化の想像をしてみる。どんなことでも答えはひとつではないからです。また、何が起きても柔軟な対応をするためにも、いろいろと想定しておく。打ち合わせ前にも相手がどういう発言をするかシナリオをたくさん考えておくとうまくまとまります。

どんなものでも修復する

全てのものはいつか壊れます。大切にしているもの、壊れてしまうことはあります。肝心なのは、壊れた途端、ぽいと捨てるのではなく「直してみる」という意識を持つこと。買ったほうが安くても直して使う。人間関係でも、行き違いや仕事上のトラブルといったことでひびが入ったら、丁寧に修繕し、より深い関係を築きましょう。

100冊の本を読むよりも、 良い本を100回読む

たくさんの本と出会うことは大切なことですが、読んだ本の数は自慢になりません。それよりは良い本を見つけて100回繰り返して読みましょう。100回とも発見があるような深い本とじっくりつきあえば多くを学べます。これは人間関係と同じ。100人につきあうよりも、本当に好きな人と100回会ったほうがお互いの本質がわかってきます。

限界は自分でつukらない

「もう無理だ」と感じた時、それを決めたのは誰でしょう？自分で決めてしまうことが多い気がします。もちろん何事にも限界はあります。環境が許さない、物理的、時間的に無理など。でも限界に突き当たる前に限界を自分が作り出すことも多いのです。「まあいいや」とあきらめなければ、きっと新しい方向が見えてくるはずです。

何があろうと信念を貫くこと

なんでもかんでも我を通す必要はありません。むしろ譲ったほうがいいことが多い気がします。ただし、自分の信念となると話は別です。信じたこと、これだと思ったことは何があろうと貫くべきです。考え抜いて手にした自分の「意思」なのですから、そう簡単に動かしてはいけません。それは自分に責任を持つということでもあるからです。

美しく丁寧な言葉遣いを心がける

職場でも、普段の生活の中でも、誰にでも、いつも美しく丁寧な言葉を使うこと。言葉遣いは本当に大切です。たまに丁寧すぎる人を見かけますが、それで嫌な感じがすることはありません。逆に、たどたどしくてもきれいに話そうとしている人からは一生懸命さや、やさしさが伝わってきます。

それは美しいかといつも考える

姿勢。しぐさ。衣食住。すべてに対していつも「それは美しいだろうか？」と考えます。手がけている仕事であれば、「出来上がったそれは美しいか？」と考えます。できあがるまでの仕事ぶりは美しいか？ありようとして美しいか？繰り返し考えます。不具合や言い訳は決して美しくありません。常に美しさを求めたいものです。

自分プロジェクトを進める

あくまで自分の中でのこと、誰に話すわけでもなく、ささやかでもいいから、自分プロジェクトをいくつか持っていると毎日が充実します。思いついただけでは忘れてしまうので書き留めておきましょう。誰に管理されるわけでもないプロジェクトを自分の中に持つとは、なんと豊かなことか、実感できると思います。

階段は一段ずつ上がること

急がないこと。近道をしないこと。割り込まないこと。全てのものごとには必要なプロセスと時間があります。どんなに急いでいようと一段ずつ踏みしめて上がる。一気にボンと上がっていったら必ず何かよくないものも跳ね返ってきます。信号が点滅している時、行けそうでも行かないという、じっくりとした態度を身につけたいものです。

面倒くさいを楽しむ

人間だから「そんなの面倒だ」ということはあります。しかし、面倒くさいことこそ実は楽しみが潜んでいます。ものごとの本質が隠されている気がします。面倒くささを楽しみ、味わいましょう。その秘訣は「面倒くさい」という言葉を口にしないこと。ひとたび言葉にしてしまえば、いろいろなものが崩れていきます。

考えや思い、アイデアは紙に書く

何か頭に浮かんだら、紙に書きましょう。ノート、メモ用紙、レシートの裏。最近はスマホなど紙ではないものでも、とにかく書き留める週間をつけましょう。人の記憶は1日経つと半分程度になるそうです。そして探し物は探していないときに見つかります。いつ答えが降ってきてもいいように書き留める準備をしておきましょう。

どうやって線を引くか考える

人間は線を引いて考えることができる生き物です。人付き合いや組織、いろんなルールも線を引いて役割を決めています。しかし、今まで引かれていた線に縛られていると狭い世界でしか考えられず、新しい発想ができません。製品を考える場合でも、どんな切り口で線を引くかをよく考えること。新しい線引きができる人になりましょう。

姿勢よく歩く、上を向いて歩く

いつも姿勢よく歩きましょう。手を振って、胸を張って、上を向いて歩きましょう。歩き方、立ち姿は自分の生活や仕事のすべてを表すもの。歩き方は、健康やダイエットだけでなく、ものの考え方や人柄にも作用するものです。ポイントはいつも人から見られていることを意識すること。自意識過剰になる必要はありませんが、効き目がある方法です。

してもらいたいことがあったら、
まずは人にしてあげる

自分が先に与えない限り、希望が通らないのは本当です。それはものや条件とは限らず、ちょっとした挨拶や笑顔でもいいのです。人を変えようと思ったら、まずは自分が変わらなくてははいけません。相手の感情を満たす何かを差し出すことが、相手に何かしてもらう秘訣であり、人間的なつきあいの第一歩なのだと思います。

発した言葉がそのまま帰ってくる

相手の名前を呼ぶと返事が返って来るように、「ありがとう」と言っていれば次に「ありがとう」と言いたくなる現象がやってきます。「ツイてる」と言っていれば「ツイてる」と言いたくなる現象がやって来るのです。逆に「つまらない」「ツイてない」など不平、不満、愚痴を言っていると、そんなことを言いたくなる現象が必ずやってきます。

やさしい人にも冷たい人にもならない

「本当にやさしい人」になるのは難しいけれど、「やさしい人」だと言われるのは簡単です。快いことだけを言い、その場しのぎでやさしくするなら誰でもできます。やさしい関係性で育つものなどありません。意地悪くして冷たくしてもいいという話でもありません。責任を果たし、何かを達成するには、やさしさでごまかさない強さも必要だということです。

足と腕を組まない。 座り方にいつも注意

座り方にはいつも注意しましょう。足を組んだり、腕を組んだりとは人前では大変失礼です。無意識に腕組み、足組みをする癖がある人は、マナーとして直すべきです。欧米なら一般的であっても、日本人にそういった習慣はありません。もちろん椅子に背中を預けて反り返るなどの偉そうな態度は論外だと思っています。

「お金がない」「時間がない」は 言わない

お金が不足、時間が不足ということはよくあることですが、それを言葉にしないこと。ついこぼしそうになったら、ぐっと飲み込む。限られたお金や時間でものごとを進めるのは自分の責任です。不足の原因は自分の中にあるのかもしれませんが。それなのに「社会のせい、世の中のせい」と責任転嫁をしていたら、いつまでも足りないままでしょう。

さかさまにも考えてみる

一方向だけで考えていると、必ず行き詰まります。なかなか答えが見つからない時は、逆の方向からものごとを考えてみるといいでしょう。自分が上司の立場だったら部下になった気持ちで考えてみるという具合です。矢印を一方通行にせず「自分が正しい」というかたくなな思い込みを捨てて、反対方向から見てもみましょう。

アクセルよりもハンドリングよりも ブレーキ上手になる

車の運転と人生の運転はよく似ています。カーブやスピードは意識するのに一番大事なブレーキが下手な人が多いように、仕事や暮らしでもついブレーキをおろそかにしがちです。飛ばすだけの人やハンドリングに凝る人はいずれ事故を起こします。車も人生も適切なブレーキ感覚が必要です。

いつも15分前

何事も 15 分前、いつも 15 分前を自分のルールにする。待ち合わせ場所には 15 分前に到着できるように行動する。会議も 15 分前には着席できるように心がける。5 分前ではちょっとトラブルがあっただけで遅刻してしまいます。5 分前行動を確実にするために、15 分前から気持ちを整え、スタンバイ状態にするということが大切です。

その場にいない人の話をしない

その場にいない人の話をするなど、まるで無意味だと思います。うわさ話やネガティブなことは当然話さない。さらに、何でもない近況について褒め言葉であっても、当事者がいない時は決して話さないことです。うっかりすると話題にしてしまいますが、いらぬ誤解のもとなので慎んだほうがよいでしょう。

仕事人間にならない。生活人間になる

仕事を取ったら何も残らないような人間にだけはなりたくないと思います。生活を楽しむ。個人的には平日の 18 時～ 22 時は自分の大切な時間だと考えています。そのためには時間を無駄にせず仕事をする必要があります。生活は仕事を活かす土台です。「優秀だけど休みの日に会うとつまらない」という仕事だけ人間は、なんとも寂しいものです。

トイレでも感謝　～「ありがとう」～

どんなことでも「ありがとう」を言いましょう。
当たり前のように何事にも感謝をしましょう。朝トイレに行っても「ありがとう」とつぶやきましょう。
体が健やかに働いてくれるから、おしっこが出るのです。清潔なトイレにありがとう。健康であることにありがとう。感謝の念が自然に湧き上がるようになれば本物です。

もっと良くするにはどうしたらいいのか という工夫を続ける

いろいろ考え抜き、できる限りのことを行動に移すと大抵のことは形になります。しかしそれはゴールではなく始まりです。とりあえず完成させたら「もっと良くするにはどうしたらいいのか？」あらゆる方法を考えましょう。できた瞬間に気持ちを途切れさせるのではなく、「まだ良くできる」と粘る。考え抜くことが進歩の鍵を握っています。

身の回りにひとつ増やしたら、 ひとつ減らす

本、洋服、インテリア、文房具、アクセサリ。
身の回りのものをひとつ増やしたら、ひとつ減らす
ことを考えましょう。無防備に増やしていかないよ
うに自分に適した量を見極める。どういうわけか増
えてしまうのも分かりますが、そんな時こそ「何を
減らせるか」と意識する習慣を持つことが大切です。
この習慣は仕事にも必ず役立ちます。

お客様をいい気分にさせる行動を 心がける

自分がお客様になった時、どんな対応をされると嬉しいでしょうか？「ようこそおいでくださいました」という心の込もった挨拶。丁寧なお辞儀。一歩下がった対応。作業中で手が止められない場合でもできる限り気持ちを込めて素敵な挨拶をしましょう。上手い下手に関係なく、お客様を敬う心が伝わればきっと心地よく感じてくれるはずです。

仕事にふさわしい装いをする

「ファッションは自己表現だ」こう思っているなら大きな勘違いです。自由とはひとりひとりが自分で自分を管理すること。作業中は貴金属を外す。作業着のファスナーや袖口は止める。靴のかかとを踏まない。これは製品に傷をつけたり事故に巻き込まれたりしないためのルールです。安全に効率よい仕事をするためにふさわしい服装をしましょう。

いつも清潔さを忘れない

職場を共有するうえで、不潔な人、体臭や口臭や香水の強い人は迷惑です。「体質だから仕方ない」というわけにはいきません。最善の努力で清潔感を維持すべきだと思います。本人にはわからないことも多いのですが、スタッフ同士が笑って言い合える仲にしたほうがお互いのためになりますので気づいたら教えてあげましょう。

人の話は「聞く」ではなく「聴く」

「聞く」というのは音や声を耳に受けること。でもコミュニケーションで大切なことは、人の話を注意して耳に留める「聴く」ということです。そして重要なのは聴く姿勢を見せること。顔を相手に向け、途中で口を挟まない。作業中なら手を止めて相手と向き合う。正しい聴き方をすれば、相手は気持ちよくしゃべれますし、お互いの理解も深まります。

トイレは使う度に心を込めて掃除する

毎日毎日考えましょう。もっときれいにするにはどうしたらいいか？と。特にトイレは使う度に掃除。トイレが汚い会社は全てにだらしないと判断されます。使った後は便座の裏まで掃除をしましょう。フタをしておくのは次に使う人への思いやりであり、むき出しにしないという心くばり。いつも掃除したばかりの状態を保つことが基本です。

机や棚、収納は常に整理整頓

会社は個人の家でも部屋でもありません。引き出しひとつでもみんなの共有の場です。次に使う人が気持ちよく使えるよう、常にきれいに整理しておきます。いつ、どこを開いても、何があるかスタッフ全員がわかるように整えられていることが肝心です。使い勝手をよくするために位置を変える時も全員にわかるようにしておきましょう。

二ヶ月後の予定を明確にしておく

日々は「今日の仕事」+「二ヶ月後の仕事の準備」の繰り返しです。「二ヶ月後のために今は何をやるの?」と聞かれたら、はっきり答えられるようにしておきましょう。仕事の内容によって期間の前後はありますが、来月の仕事も見えないようでは困ります。「今日のことを丁寧に、先のこともぬかりなく」が基本となります。

こんなふうになりたいという 目標、夢を持つ

「あなたの夢は何ですか」と聞くと、答えられない人が多いことに驚きます。なんとも不思議な話です。「こんなふうになりたい」と強く願い、行動すれば夢は必ず実現します。仕事は自分の夢や個人的な目標を叶えるプロセスにすればいいのです。どんなにささやかであっても、個人的な夢を持っている人といない人では働き方がまるで違ってきます。

いつも素直な気持ちで働くこと

何か言われるたび「でも」「だけど」と否定もしくは、反対するような返答ばかりの人はいい仕事はできません。何でも理屈をこねる人は悪気がなくても気持ちよくありません。素直さと初々しさを持って毎日の仕事をする。たとえば「違うな」と思っても、まずは「はい」と素直に受け止めること。そこからよく考えて話をしてみましょう。

できる方法はないか考える

私たちはやってみたこともないのに、何事もできっこないと思いがち。優秀な技術者や経験者ほど「できるわけがない理論」で頭がいっぱいになっています。できると思わなければできるものもできなくなる。アイデアをひらめくプロセスは凡人も天才も同じ。どんな人でも忍耐を重ねて考えて考えていけばひらめきを得ることができるのです。

「助ける」アイデアでなければ 「儲からない」

お金を儲けなければ生活はできません。でも「儲かる」ためには世の中を「助ける」ことをしなければ「儲からない」のです。会社は社会や従業員を幸せにするために存在しています。そのために世の中に役立つ、感謝されるものをつくり続ける必要があります。それは何か？日々の生活の中でも常に考えてみましょう。

会社の外でも自覚を持つ

仕事から離れて食事に行ったり、遊んだりすることはあって当然です。プライベートを楽しむのはいいことですが、常に「自分は静岡技研工業の人間だ」という自覚を忘れてはいけません。「誰も知らない」と思っているにもかかわらずどこかで誰かが見えています。信号無視をしたり、泥酔したりしたらお客様と一緒に働いている仲間にも迷惑がかかります。

目標は途中で必ず経過をチェックする

目標は経過をチェックしないと達成できません。何がどこまでできているのかといったことを曖昧にしておくと、最後まで歩き通せないのです。だからひとりひとりが今週の目標を立てたら、週の半ばで「目標はどれくらいできているの？」と自分自身もしくは仲間同士で達成度を確認し合う必要があります。

時間投資という意識を持つ

時間もお金と同じように大切に考えるべきです。使い方を考えなかったり、無駄にしたり、いくらでもあるものと思ってはいけません。時間はお金と違ってためることはできません。やるときはやる。休む時は休む。その使い方によって何が得られるのかを知りましょう。活きた時間は活きたお金になり、活きたお金は活きた時間になります。

他のスタッフの仕事にも関心を持つ

自分の仕事だけでなく、他のスタッフがやっていることに関心を持つ。誰が今どんなことをしているのか知っておく。一緒に働いている以上、自分の仕事だけやればいいという話にはなりません。コミュニケーションをとり、自分から今何をやっているか話してみましょう。協力し合う気持ちは自分の仕事にもプラスになるはずです。

どんなに忙しくしても、 不機嫌になって仕事をしない

誰にでも事情はあります。体調、気分の波、私生活のあれこれ。さらに仕事でいっぱいになったときなど心に余裕がなくなることも珍しくありません。だけど、それはそれ。仕事に自分の事情を持ち込んではいけません。スタッフ同士のコミュニケーションも悪くなり悪循環ですから、不機嫌になって仕事をするのはやめましょう。

ため息をついたり、ぼんやりしたり、 あくびをしない

人は1日1000回ため息をつく、うつ病になるそうです。人間の心というのは、自分の体が起こした行動に引っ張られる性質があります。だから、ため息やぼんやりやあくびをすると気分も落ちてしまいます。無理やりでも笑ってみましょう。笑顔は自分だけでなく周りも幸せにします。できれば1日1000回の笑顔をつくってみてください。

報告は聞かれる前にする

「あの件どうなった？」そう聞かれたことが何回あるでしょう？聞かれてしまうということはどういうことか？それは報告が遅いということです。報告は鮮度が命です。早め早めの報告を心がけたいものです。メールでも口頭でも構いませんが、記録に残した方がいい場合やスピードを要する場合など、状況を考えて早めの報告が大切です。

報告を受けるタイミングを定める

報告を受ける場合は「この件に関してはいつまでに報告して欲しい」と事前に報告のタイミングを取り決めておく。そうすれば報告をする側と待つ側の気持ちのズレがなくなって、トラブルも抑えられます。思いつくたびに同じことを何度も聞かれたら、せっかくあったやる気もなくなってしまいます。

約束は必ず守る。 守れないときは必ず早めに連絡する

仕事とは、約束事でできています。約束は必ず守ることが基本中の基本です。もちろんどうしても守れないケースも生じます。そんな時はできるだけ早く連絡すること。「今の状態では約束を果たせないけれど、いつまでにはやります」というように。ぎりぎりになって「できません」では二度と仕事を頼まれることはないでしょう。

出足を早く、引き足を早く

時間に追われるのではなく時間を追う生き方をしたいものです。朝は早めに起きて支度をする。早めに出社して仕事の段取りをする。そして仕事の終わりのサッと引き上げる。出足を早く引き足を早くというのは世渡りの秘法だそうです。いつも時間に追われて遅刻ばかりしている人は、まずは早起きから始めて出足の早い一日をスタートさせましょう。

仕事道具、備品の無駄使いをしない

道具や文房具、ゴミ袋、用紙、掃除用具。こまごまとある備品は無駄使いをしないよう、節約方法を考える。「こうやったら無駄が減る」という話を頻繁にするといいでしょう。コピーやメモ用紙は裏紙に。しょっちゅう行方不明になる道具やペンも、たくさんありすぎるからなくなるのです。最初から1本だけなら大切にするのではないのでしょうか。

ものを売るには自分を売る

最初から製品の説明をして、ものを売ろうとしてもなかなか売れません。まずは土台が必要です。自分を信用してもらうことから始めましょう。相手とよい人間関係を築くには、相手を幸せな気分にならせてあげることです。相手の長所を発見して好意を持って話を聴くことです。製品説明はそのあとすればいいのです。

自分の売るものに自信を持つ

世界の 64 億人に完璧な人間などおらず、その人間が作るものにも完璧なものなどありません。多少の欠点はあるにしても、それをはるかに超える価値に共感し、相手を幸せにするものならば自信をもって提案すべきです。マイナス部分ばかりにとらわれず、誠意をもってプラス部分を伝えれば、きっと相手もその価値やメリットを感じてくれるはずです。

「買ってもらおう」とは思わない

働くとは傍^{はた}つまり周りの人を楽にすることで、泥棒以外の職業は相手の役に立つこと＝相手を幸せにすることで成り立っています。相手を幸せにするものであれば「買ってもらおう」という媚びた気持ちではなく、むしろ「売ってあげよう」という凜とした気持ちになるはずです。ただし、相手を敬う気持ちは絶対に忘れてはなりません。

「つもり」という言い訳をしない

悪気があってミスをする人はいません。ミスを憎んでも人を憎んではいけません。しかし「こんなつもりじゃなかった」「こうするつもりだった」という言い訳は見苦しいものです。「つもり」というのは自分の中の問題であり、一緒に仕事をするみんなで分かち合おうというのはおかしい話です。まずは素直に謝ることにしましょう。

どんなことにも「よい知恵」を絞る

知恵は「知ることに恵まれる」と書きます。このことによって知恵が沢山ついてくるのですが、悪い知恵がついてくると働いているふりをしたり、適当に同じことを繰り返したりするようになります。これでは人は成長しません。まずは自分が恵まれているということを知り、どんなことにも「よい知恵」を絞ること。それが自身の成長につながります。

心を落ち着かせ、 足下を見直してみる

「きゃっか しょう こ脚下照顧」とは足下を見なさい、自分をかえり顧みなさいという意味です。どんなに忙しい時でも、履物をそろえて脱ぐくらいの心のゆとりが欲しいものです。心にゆとりができれば自分自身の姿もよく見えてきます。そして、自分で履物をきちんとそろえて脱げるようになったら、他人の履物の乱れも直してあげましょう。みんなの心も落ち着きます。

すぐの法則で目標を設定する

将来お金持ちになりたい。こんな目標だけではなかなか実現しません。そんな時は「すぐの法則」が役立ちます。「す」「ぐ」は「数字で」「具体的に」の頭文字を合わせたものです。〇〇歳までに〇〇円を貯金する。そのためには・・・という目標設定のほうが現実になんて近づいてきます。仕事でも数字で具体的に決めていくと達成度や進捗がよくわかります。

簡単でもいいから、 その日のうちにフォロー

あらゆることに当てはまりますが、「〇〇っぱなし」はいけません。会議や打ち合わせをしたら「しっぱなし」にせず議事録を。メールを受けたら「受けっぱなし」にせず返信を。時間をかけてむずかしい資料を作る必要はありません。簡単でもいいから、その日のうちにフォローする習慣をつけておきましょう。

会話の中に相手の名前を入れる

人は名前を呼ばれると嬉しいものです。呼ばれた人は自分が大切にされていると感じます。仲良くなりたい人には積極的に名前を呼んだり、会話の中に適度に名前を入れたりしてみましょう。相手との距離がぐっと縮まるはずです。人の名前を覚えるのは大変なことです、何度も名前を口にすることで忘れにくくなるメリットもあります。

相手に見られている気持ちで 電話をする

電話応対によって、先方は会社の印象を瞬時に決めてしまいます。顔が見えない分、電話の応対が粗雑だったり、やる気のなさそうな、頼りない印象は会社全体の信用を落とします。案外、相手にはこちらの様子が伝わるものです。仕事の手は一旦休め、相手が目の前にいる気持ちで背筋を伸ばして笑顔で応対しましょう。

デッドラインを決めて行動する

時間に制限があるものが仕事。時間に制限がないものは趣味です。仕事というのは時間をかければいいというわけではありません。「この作業は何時まで」というデッドライン（締切り）を設定しましょう。これを決めると、時間がきたら次の作業に移らなければならないので、集中力も高まります。もちろん雑談をしている暇などなくなるはずです。

知識は広く深く

製品開発でも、自分の担当分野に閉じこもり、狭い範囲で仕事をしていると、あっという間に世の中に置いていかれてしまいます。専門化は深く進むことは当然ですが、深さに比例して広さも必要になります。開発者であっても製品のプロデューサーとして、広く浅くでもなく、狭く深くでもない、広く深い知識が求められます。

外注さんはパートナーであることを 忘れない

コスト削減や投資を抑えるためだけの外注化はうまくいきません。一緒に新しいものを産み出しているという信頼関係がなければ競争相手を育てるだけです。ですから外注さんへの対応もパートナーとして尊重すべき。「仕事を出してやってる」ではなく「一緒に仕事をしている」という意識を忘れず、共によい製品づくりを目指しましょう。

分をわきまえる

分というのは自分、身分、親分子分の分で、そこでの自分の立場や役割のことです。分をわきまえるというのは、いま自分がどういう立場にあるのかよく理解すること。分はその時々で立場が変わるので、同じ人が家では親分でも会社では子分になったりします。これをはき違えると大変なことになります。特にお酒の席では気をつけましょう。

愚痴をやめると時間と信用が増える

愚痴を発するためには、その話を聴いてくれる人が必要になります。そう考えると2人分の無駄な時間を費やしたことになります。同情を買おうと会社の愚痴をこぼす営業マンがありますが、これは逆に信用を失います。愚痴を発しない、聞かないと決めるだけで膨大な自由時間と信用がプレゼントされることをお約束します。

100点目指して期限切れより 90点でもいいから期日に提出

遅刻したらすべてがゲームオーバーです。100点満点の実力がありながら、約束の期日に間に合わなかった人と、90点の実力でも期日に間に合わせた人とは後者の勝ちとなります。ハンマー投げも走り幅跳びもラインをちょっとオーバーしたらどんな記録でも失格になるのと同じです。期限切れオーバーはそのくらい罪が重いということです。

書類や物を探さない

「仕事上手は整理上手」といいます。会社の仕事の多くは小さな雑務の塊であり、放っておけばどんどん不要なものが溜まっていきます。いつも整理をして不要なものは捨てていかないと欲しい時に見つかりません。書類や物探しに追われ仕事のスピードが落ちてしまわないように常に整理整頓を心がけ、身の周りをすっきりしておきましょう。

すきま時間を有効に使う

出張移動中の電車内で寝ている人をよく見かけますが、まったくもったいない話です。しかもこの時間が勤務時間内であれば工作中に居眠りをしていることになります。打ち合わせ記録を作成する、改善提案を考える、仕事に活かせる勉強をするなど移動中のすきま時間は有効に使うべきです。「あなたの1分間はいくらか」をよく考えることです。

自然の流れに逆らわない

暑さ寒さや風雨など自然現象は科学技術や文明の力をもってしてもコントロールできません。人間の力を越えた自然現象を受け入れ、起こることにどう対応するかを考えることが大切です。思い通りにならないことは必ずあります。その時、自分をどのような態度に切り替えられるかで、ピンチをチャンスに変えることができるのです。

自分の身を守る術を知る

「自助」とは「自分の安全は、自分で守る」という意味で、これが防災の基本だそうです。自分が動けなくなっていたら自分の大切な人を助けることもできません。まずは自分自身が怪我をしないこと。そのためには、普段からの備えが必要です。仕事においても同様です。いざという時の段取り、心構え、体力づくりを今日から始めていきましょう。

お客様とは対等な関係を

「お客様は神様です」とよく言われますが、何でもお客様のワガママを聞くということではありません。むしろ、お客様とは対等の関係でいられるように、できるサービスの範囲内で最大限の努力をすることが大切です。反対に、自分がおお客様の立場に立ったときは、王様気分の横柄な態度をとらないように。お互いに良い関係を意識しましょう。

自分を小さな会社に置きかえる

たったひとつでも不良品が会社の外に流れ出ること
で、会社は大きく信用を失ってしまいます。不良品を社外＝お客様に絶対出さないこと。これを徹底するためには、自分を小さな会社に置きかえてみるとよいでしょう。自分が〇〇会社の社長として責任を持ち、不良品を社外＝次の工程に絶対出さない。その責任感が不良ゼロにつながります。

行動を伴わない思考は無用

思考つまり考えることはとても大切です。しかし、行動を伴わない思考は無用です。いつまでも考えてばかりで動かなければ、いつか腐ってしまいます。一つ考えたら、まずやってみましょう。そこでまた考えて次に行動します。そんなスパイラルな動きの中から活きたアイデアが生まれてくるのです。

TTPでどんどん真似る

真似をするのは恥ではありません。TTP とは「徹底的にパクる」の略です。他人の考えたことでも、いいことはすぐにでも取り入れた方がよいのです。ただし、TTP で真似るのは形ではなく、あくまで本質です。全く同じことをするのではなく、自分にふさわしいやり方を模索し、見つかったらそれを徹底的にやる。頑張るのはそこです。

問題が発生したら、まずその火を消す

失敗はしないにこしたことはありませんが、絶対に失敗しないということはありません。その場合、まず最初にやることは目の前の火を消すこと。犯人探しに時間をかけてはいけません。お客様に迷惑がかかっているなら全力でその迷惑になっている状態の解消に努める。原因究明と再発防止はその後、徹底して行うようにします。

いつも周囲に気を配る

江戸の時代、人は道の真ん中を歩くのではなく、自分が歩くのは道の 3 割にして、残りの 7 割は他の人のためにあけておいたそうです。会社内でも人がスムーズに歩けるように周りに気を配ること。自分の椅子が大きくはみ出していたり、作業で背後に気がつかず通行を妨げたりしている場合があります。通路にも物を置かないように注意しましょう。

迎え入れる準備を怠らない

打ち合わせなどがある場合、訪問する側が時間を守るのは当たり前。ところが、迎える側の準備がおろそかになっていることがあります。招き入れる部屋がきれいか、収容スペースは十分か、事前にチェックしておくのは当然のことです。対応を他の人に依頼する場合も、名前、人数、時間をしっかり伝えておくことを忘れないことです。

量をこなして、はじめて見えてくる

仕事のできる人というのは、ポイントを押さえている人です。言い換えると要領がいい人です。この要領というのは、圧倒的な量をこなしてはじめて見えてくるものです。量をこなさないでいきなり要領をつかむことはできません。スポーツや料理と同じように最初から上手くはいかないのです。上手くなるにも失敗の量が必要なのです。

社会人だからこそ勉強する

嫌いな勉強を無理にやらされるのは、学生時代で終わりです。社会人になったら自分に興味があること、今まで知らなかったことを自由に勉強することができます。1年で1テーマ、40年経ったら40テーマの勉強ができるのです。社会人は勉強しなくてもいいと考えている人と社会人だからこそ勉強すると考えている人とは人生も大きく変わってきます。

生きているうち、働けるうち、 日のくれぬうち

青春とは人生のある期間をいうのではなく、心の様相をいいます。年を重ねるだけで人は老いたりしません。理想を失うときに初めて老いがくるのです。元気なうち、体が働ける今のうちに楽しく生きがいを感じられることをして幸せな人生を生きたいものです。働ける自分の環境に感謝をしつつ、常に情熱をもって楽しく日々を過ごしましょう。

経営理念をよく理解する

会社は「社会や従業員を幸せにするため」に存在しています。経営理念はそれをどうやって実現していくかを示したものです。静岡技研工業という会社がどこに進んだらいいかわからず迷った時これを思い出せば、ちゃんと道しるべになるのがこの経営理念です。決して忘れたりしないでください。

経営理念

Lights for Delights

我々は電源と光源の製造を通して、
あらゆる人々に「感動や喜びの光」を提供することで、
永続的に発展する企業となり、
自分、家庭、社会に誇れる企業を目指す



静岡技研工業の三信条

①会社は潰してはいけません。

なぜなら会社とは世の中に貢献するために存在し、
社員とその家族の幸せな生活に必要なものだからです。

②会社は利益を目的にしてはいけません。

なぜなら利益は世の中に貢献した結果であり、
その実現のために必要な手段にすぎないからです。

③会社はごまかしてはいけません。

なぜなら透明で誠実な心なくして
世の中に貢献はできないからです。

静岡技研工業のモノづくり精神

①時代の変化に対応した製品づくり

②身の丈にあった製品づくり

③ライバルの少ない製品づくり

静岡技研工業の五つの心

①ありがとうという感謝の心

②はいという素直な心

③すみませんという反省の心

④おかげさまでという謙虚な心

⑤私がやりますという奉仕の心

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

SGK しぐさ 思草

静岡技研工業株式会社

2013 年 4 月 12 日 発行
非売品 禁複製

 **SGK** 静岡技研工業株式会社